

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390101402		
法人名	医療法人室原会		
事業所名	グループホーム きくなん		
所在地	熊本市北区鶴羽田3丁目11番15号		
自己評価作成日	令和5年1月 日	評価結果市町村報告日	令和5年 3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和5年 2月 9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念・メッセージに基づき、利用者様やご家族に寄り添い、温かで落ち着ける場所だと感じ生活をして頂けるようなケア、雰囲気を中心掛けています。生活にメリハリを感じて頂けるように季節ごとのイベントや、外出など行っております。体調面に関しても昼夜問わず隣接の連携病院にて何かあれば早急に対応出来るよう体制を整えており、栄養面でも連携病院の管理栄養士にて管理された食事を、個人に応じた内容で提供しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「私たちは家族です」を理念とし、利用者・地域・家族をつなぎ、思いを分かちあい、安心した生活の提供が行われている事業所です。コロナ禍でありながらも、感染予防に配慮したドライブ等の外出は以前と変わらないように見られ、外食を楽しんだ様子も聞かれました。面会制限が余儀なくされた時期もあり、事業所から家族への手紙や電話、動画、通信アプリの利用等で、家族との距離がより近くなった様子もありました。日々の生活の中では入居者と寄り添う職員の姿が訪問時にもよく見られ、入居者の言葉・様子を記録していくことで変化を振り返り、ケア・介護計画の見直しも手厚くなされています。職員間では事例やテーマを設けて人材育成に取組み、「プラス思考でのケアに」つながるよう事業所全体での取組みがみられました。</p>

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に関しては、新入職員には最初に説明しており、毎月のケアカンファレンスで判断に迷う事があれば、理念に基づき判断するよう共有、実践につなげている。	「私たちは家族です」を理念の冒頭に謳い、日頃のケアの基本としている。運営推進会議の資料にも毎回記載し、家族・地域への啓発も続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域一斉清掃参加や消防訓練時、北区のボランティア来所時に関りが持てるようにしている。また買い物や散歩の際、挨拶など声をかけ交流に努めている。	従来から行われている地域一斉清掃は年々入居者の参加が難しくなっているが、出来るだけ職員だけでなく入居者の同行も続けている。病院受診の際には近隣住民の方とお会いすることもあり声掛けをしている。消防訓練実施のうち年1回は近隣住民の協力も得て行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域からの認知症への支援要請があればいつでも対応出来る。ささえりあ等の要請にも対応出来るよう体制を整えている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで毎回、会議の際は地域の方や関連業種の方に参加して頂き、スライドを使い活動内容や意見交換を行っていたが、コロナ禍においては文章報告となっている。しかしながら、文章報告書お渡しの際に、会話をもち意見交換を行いサービス向上に努めている。	運営推進会議は年6回開催しているが、コロナ禍により書面報告が続いている状況である。書類提出の際には直接お渡しすることで直接言葉を交わし、意見を得る機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ささえりあとは電話相談や依頼相談の電話もあり常に協力関係を築いている、	市担当へは事業所運営における報告・連絡・相談等で協力関係を築いている。地域包括支援センターには運営推進会議への参加だけでなく、日常的な相談や取組みについて説明を行ったり、センターの在宅支援への協力等、相互での協力関係を持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会開催や勉強会、カンファレンス、ケアカンファレンスにて意見交換を行い、身体拘束をしないケアに努めている。	3ヶ月に1回事業所内で身体拘束に関する勉強会等を行っている。入居者それぞれに対し毎月のケースカンファレンスで課題を職員間で共有、日々の変化を追うことで入居者本人への適切なケアを随時検討し身体拘束をしないケアへ繋げている。	

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する委員会も開催し、また勉強会も行い、カンファレンスやケアカンファレンスにても意見交換を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用したことはないが、勉強会参加や機会があれば外部勉強会にも参加し共有出来る体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、随時質問も受け同意を得て契約を行っている。改定の際にも同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、アンケート、投書箱など意見や要望を聞く機会を設け、改善点などあれば運営やケアに反映させ対応するように努めている。	入居時は家族にしっかりと意見・要望等を聞くようにしている。入居後はコロナ禍であっても玄関での面会等工夫により出来るだけ来訪を受入れている。コロナ禍になり電話連絡も以前より多くなり、通信アプリを使うことで家族との距離が縮まった例も見られ、意見や要望を表すことができる関係性も高まった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンス、必要時には随時、また年2回面談を行い、提案や要望があれば話し合い、運営や業務に反映できるよう努めている。	日頃から職員は主任・管理者へ意見を表すことができる体制がある。毎月の職員会議の他、年2回個人面談もあり、主任・管理者・法人にて評価がなされ、面談時には個人目標や進捗状況の把握もなされ、個人的な意見も伝えることができる場である。職員会議では職員の意見を参考に業務見直しも行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度があり、各自、自己評価を行ったり目標を掲げ向上心を持って働けるように努めている。希望があれば資格取得の補助を行ったり職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム勉強会、外部勉強会参加はもちろん、経験年数や力量をもとにケアの質を高める為にも介護実践者研修、リーダー研修取得を進めている。		

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にてなかなか現場にての交流の機会はないが、リモートにての研修会にも参加しネットワーク作りが出来るよう努めている。その際意見交換しサービス向上に取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困らされていたり、不安がられている際は、信頼されているご家族の名前を出し、安心して頂けるよう努めている。また居室などゆっくり会話が出来るように、環境などにも気をつけ関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とよく話し合い、不安や要望を聞き、困ったことや不安な事を知り、対応するよう努めている。来所の際には、利用者の様子をお伝えし、また安心して頂く様に写真や動画などもご家族に見て頂く様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、ご家族の必要としている支援を見極め、提案や支援の見直しを行い要望に添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事やゴミ捨て、買い物など役割を持って頂く事で協力し合い暮らしを共にするよい関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には必要な買い物などお願いし、コロナ禍においてはビデオ通話などを通じ交流を行い、本人と家族の絆を大切に共に支えていけるよう関係を築くよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍において頻回な外出は難しくなってきたが、季節ごとの外出やドライブを通じ馴染みの風景を見て頂いたりするよう努めている。昔話をしたり馴染みの人も思い出して頂けるよう支援している。	以前は来訪頂ける方もみえたが、コロナ禍でもあり気軽な関係継続支援は難しい状況が続いている。病院受診の際は知り合いの地域の方々や関係者と会う機会もある。ボランティアの方々の来訪歴は長く、入居後の新たな馴染みの関係もできていく。馴染みの場所へのドライブ等は継続している。	

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の関係性を把握し席の配置を考えている。ホールに誘導の際には、スタッフが間に入り挨拶をし合ったり、孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援が必要な際にはいつでも声をかけて頂き支援が出来るよう努めている。色々なサービス提供が出来るよう準備は出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや要望を把握し一人ひとりに寄り添うよう努めている。ご家族からも本人の意向や思いを聞き、本人本位に検討する様にしている。	近年入居者の高齢化や身体状況の変化もあり、思いを表せることが出来る方も減ってきた。日頃から職員が入居者の傍らで寄り添い、希望・意向を汲取れるような声掛けを行ったり、様子を見て把握し、家族にも声掛けすることで入居者の思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、必要時は関係者よりの情報も含め生活歴や環境を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態の観察を行い、記録や申し送りノート、ケアカンファレンスや毎日のケアの中で出来る事を見極め、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者やご家族の思い、意向をもとに介護計画をたて、ケアカンファレンスや必要時にはご家族も含め話し合いを行い介護計画、モニタリングを行っている。	毎月担当者を中心とし職員会議を利用したケースカンファレンス、3ヶ月ごとのアセスメントをもとにモニタリングを行い、日々の変化を追うことで介護計画の見直し・変更、反映に繋がっている。家族の意見も「ケアプラン家族相談シート」を利用し介護計画に反映している。入居者のADL低下予防のための運動も取入れ、ADLの低下がみられる際にはケアカンファレンスで見直している。	

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録やケースカンファレンス、申し送りノートや日誌にて気づきや実践したことなど記し、全スタッフが把握できるように努め、介護計画の見直しに活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者やご家族の要望時、もしくはスタッフより提案も行い、訪問マッサージなど柔軟なサービス支援が提供出来るようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により利用者の地域清掃や地域への積極的な活動は出来ていないが、地域ボランティアを受け入れており、草取りや窓ふきをして頂く中で、窓越しで交流を図り、利用者が地域の一員であることを認識出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員法人の連携病院をかかりつけ医として希望。連携病院とは密に連絡を行い、急遽の際にも対応出来るように体制を整えている。訪問歯科や他病院受診など、ご家族の要望にて柔軟に対応し、介護タクシー手配など、利用者やご家族共に安心して頂けるよう支援している。	現在入居者全てが法人の病院をかかりつけ医としており、院長・事業所・病院外来で情報を共有している。病院と事業所間の「緊急用マニュアル」が作成されたことで、夜間や緊急時のフローチャートもが示されていることは事業所の強みである。専門医等受診の際は家族と協力し、情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは利用者の体調の変化があった際は、早急に職場内看護師に報告・相談したり連携病院の看護師にもすぐ連絡が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	他病院入院時は、サマリーや看護師へ細かく利用者の情報を伝え安心して治療出来るよう支援し、連携病院入院の際は医師、看護師、リハビリや、ソーシャルワーカーなど関係者と協働し情報共有に努めている。また関係作りは出来ている。		

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りや終末期に関する意向は契約時に伺っているが、日頃から利用者の健康状態や病院受診の内容などご家族へ報告しており、いざという時にはご家族の望む終末期を選択出来るよう配慮している。連携病院や関係者とチームとして支援出来るよう体制は整えている。	重度化や終末期に向けた方針と事業所の対応等は入居時に本人・家族へ説明している。実際にその時を迎えた際には家族・関係機関との話し合いを重ね支援を行っているが、現状医療が必要となった際には現状では殆どの入居者が入院を希望されている。体調急変時等には病院との24時間体制がとられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時を想定してフローチャートやマニュアルを作成しており、また毎年AEDの実技指導をうけており、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成しており、年2回の消防訓練では昼間、夜間想定や机上訓練など様々な状況を想定した訓練を行い避難誘導の手順を熟知している。避難訓練では、実際に利用者・連携病院職員・近隣住民も参加してもらって訓練を行っており協力体制を築いている。	年2回の火災避難訓練を行っている。今年度は1回目のは法人の隣接事業所職員、近隣住民と全入居者参加での避難訓練、2回目は机上訓練に加え個人でのテスト方式を試み、振り返りを行った。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇や権利擁護の勉強会を行い、事務所内にも「声掛け変換集」を張り、職員がいつでも再確認出来るように努め、利用者が安心して生活出来るよう対応している。	理念にも「利用者の尊厳と自立した生活を第一」とし、「安心を提供」することが掲げられている。現状心配される事例はないが、気になる事項が見られた際は毎月の会議や都度職員間で話し合う機会を設ける。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のペースにあわせ、その方に合った個別対応に努めご家族の意見も参考に、傾聴も含め自己決定が出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のニーズや希望する生活を介護計画に反映し、要望に沿った支援に努めている。その都度利用者の意思や様子を確認し、昼寝時間や居室で過ごす時間を設けたりホームでの生活に負担を感じず安心して生活して暮らせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問カット利用などにてパーマや毛染めなど、利用者の希望通り出来るよう対応している。外出時や入浴後など、選べる方は一緒に服を選んだり支援している。		

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は隣接する病院より配食があっており、盛り付けなどはホームで行っている。肉が苦手な方はミンチにしたり、個人個人の状態に合わせ、柔さやカットなど配慮し、食事を楽しんで頂けるよう配慮している。皿洗いや皿拭きなど出来る方がその時々状態に応じ担当されている。	食事は隣接する病院からの配食であるが、食に関するアンケートや日々の伝達で事業所の声をあげ、見直しを重ねた提供がされている。事業所内のイベントとして餃子作りを入居者と行うこともある。食事全般を生活の一部として、出来るだけの関わり・役割作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と情報交換を適宜行いバランスのとれた食事や嚥下状態に応じた食事提供が出来ている。高血圧食や脂質制限食なども病状に応じた食事も対応出来ている。チェック表を用い、食事量や水分量を把握しており、水分摂取が少ない方はゼリー提供など個々に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っており、自力困難な方は職員が歯磨きや義歯洗浄の介助を行っている。利用者やご家族の要望に応じ、訪問歯科の受け入れも行っている。訪問歯科とも連携し、口腔ケアの介助方法等、実技指導も受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、ご利用者の排泄パターンの把握をしている。トイレでの排泄が可能な利用者は時間を確認しながらトイレ誘導を行い、排泄の失敗やおムツの使用が減るよう支援している。	入居者それぞれの排泄チェック表により声掛け等によりできるだけトイレでの排泄を支援している。オムツやパット使用の際は費用面にも考慮し、職員会議等で意見を出し合い、トイレ誘導時間の見直しや手順を都度検討している。オムツ使用については家族の意見も参考にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者個々の排便状態を把握し、便秘時の牛乳提供や、ご家族が望まれるバナナや納豆などの提供も行い、出来る限り自然排便につながるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週3回行っており、入浴の順番は利用者の希望を尊重し、その中で外出や易疲労感などの状況に合わせて臨機応変に対応している。ゆず湯や菖蒲湯など利用者が楽しめるよう努めている。	入居者の希望や体調等も考慮し、週3回の入浴を基本としている。座位保持ができずシャワーチェアの利用が難しくなった方のためストレッチャーを導入し、安全な入浴ができる。	

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はホールで活動したり、居室やソファでゆっくり過ごしたり、利用者個々の生活リズムや状態に合わせた支援をおこなっている。また、長時間の座位が苦痛にならないようベットでゆっくり休息して頂く時間も設けている。日中の生活にメリハリがある事で夜間の良眠につながっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報をファイルに綴っており、職員は薬の情報を周知している。症状の変化や何か不明の際はすぐに医師や薬剤師に確認するなど連携もとれている。年に一度薬剤師による勉強会を開催し、その際に利用者が服用されている薬の詳しい説明や留意事項も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の「出来る事」に目を向け、皿洗いや掃除、洗濯ものたたみやゴミ捨てなど役割分担し職員と共に活動している。嗜好品などはご家族と情報共有を図り、利用者が望む時に提供出来るよう支援している。戸外への外出もコロナ感染に留意しながら気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のためなかなか外出は難しいこの頃ではあるが、鯉のぼり見学や花見など、時間や人混みなど感染リスクを十分に配慮した上で外出を行っている。また、ゴミ捨てやホーム周辺の散歩などの際、外気を感じられるような支援を行っている。今後、感染状況を確認しながら利用者やご家族が希望される場所への外出等、積極的に行っていきたい。	コロナ禍ではあるが、人込みを避け、鯉のぼり見学や花見等景色を楽しむドライブは以前と変わらず出かけている。事業所周辺の日常的な散歩も続けており、時には面会に来られた家族と一緒に散歩する入居者の姿も見られる。今年度は感染予防に配慮の上イベント広場に出向き、キッチンカーを見つけて好みの食事を選び外食する機会も設けた。	コロナ禍でありながらも、感染予防に配慮しできるだけ以前と変わらない支援を行っている様子が聞かれました。面談の際も課題とされていましたが、「家族と一緒に」の支援が再開できる日がくることに期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は数名おられ、希望される時に、お菓子や日用品など隣接病院の売店や、スーパー等と一緒に行き買い物出来るよう支援している。		

グループホーム きくなん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍で長期の面会制限があり、ご家族と一緒に過ごせない日々が続いているが、テレビ電話を利用しコミュニケーションがとれるよう支援している。遠方のご家族でも顔を見て話が出来るためとても喜ばれている。日常の様子や行事などの動画を適宜、ご家族に転送し安心して頂けるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に清潔を保ち、利用者が安心・安全に過ごせるよう温度や湿度にも配慮している。季節を感じて頂くために、季節の花や兜、お雛様など飾ったり気候の良い日は窓を開放し風を感じて頂き、テラスに出たり、居心地よく過ごして頂くよう支援している。	食事スペースを兼ねたりリビングには感染予防に配慮した机の配置となっており、入居者それぞれの席がある。テラスで過ごす時間は外気を感じ、テラスから眺められる畑には野菜も植えられており、生育を楽しむ姿もある。季節の飾りも生活に華を添えている。運動を兼ね、トイレに行く際に回り道をする姿もあり、歩行の妨げにならないよう清潔・整頓に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でパズルを楽しんだり、ソファでゆっくり過ごされたり、利用者のペースを尊重し、それぞれが好きな場所で安らげる空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や家電、小物など持参して頂いており、居室内の配置も利用者やご家族と相談しながら行っている。ご家族の写真やホームでプレゼントした物を飾り付けるなど、利用者が心地よく過ごせるよう工夫している。	使い慣れた生活用品が持ち込まれたそれぞれの居室には洗面台があり、身だしなみを整える入居者の姿も見られる。家族からの写真や手紙も見られ、家族の関わりの様子も感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなど生活に必要な場所が一目で分かるよう、張り紙や矢印を表示している。利用者のADLに合わせ、居室トイレ内に介助バーを設置するなど、安全に自立した生活が送れるよう環境整備に努めている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム きくなん

作成日 令和5年3月15日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	コロナ禍にても感染予防に配慮し（利用者様）外出支援を行っていたが、今後「家族と一緒に」の支援の再開	感染予防に配慮し家族と共に行事が再開出来る	世情を考慮しながら家族と共に支援出来る行事を実施する	3ヵ月～ 6ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。